

今回の研修は、非常にたくさんの良い刺激を受けることができました。今まではただ漠然としていた東京という町の輝き、活発さ、そういったものを五感で感じることができましたし、自分の目標としている大学や企業で自分の力を存分に発揮して輝いている人たちの話を聞くことで今までに感じたことのないモチベーションの高まりを覚えました。何より、仙台二高の先輩たちの偉大さ、それが自分たちの代に期待としてのしかかって来ることに対する責任を感じ、より一層、勉強はもちろんのこと二高生として活動してゆくこれからの全てにおいて、自分ができる最高のパフォーマンスをしようと決意を新たにすることができました。

二日間の東京研修について、改めて細かく振り返っていきたいと思います。まず初日。東京に到着して最初に行ったのは、現役時代素晴らしい業績を残した方々や、今現在現役として働いている方々とのディスカッションです。特に、既に引退した方々のパワー、語る内容の壮大さ、そして将来に対する先見性、全てにおいて私は圧倒されました。例えば、ICTを専門とする方の話では、あの有名な、現在の職業の半分がAIに取って代わられてなくなってしまうという話から、しかしそのAIを制御するのは人間自身なので職業に困ることはない、ましてやAIの方が人間よりも上に立つことはないという話をしてくださいました。そのほかにも四か国で合計数十年にも渡る外国での生活経験を持つ方や、海洋法についてを専門としている法律家の方など、すばらしい話をたくさん聞くことができました。また、義手の開発をしている近藤さんの話からは、義手はなるべく人間の腕に近づけた方がいいというおそらく誰しもが持っている固定観念が必ずしも正しいことではないということを知らされました。

このように刺激溢れるディスカッションを終えた後は、各自が独自にアポを取った企業大学訪問を行いました。私たちのグループは第一希望と第二希望の事務所どちらにも断られてしまい、訪問先が決まったのも本当にギリギリでした。私たちが行ったのは一橋大学です。自分にとっては、現在の第一志望の大学であり、非常に興味がありました。その中でも私たちのグループの志望学部である法学部で、刑事訴訟法の研究を専門としている青木教授の所へ話を聞きに行くことになりました。私は最初、その教授という肩書きから、申し訳ないですが勝手に、すごい威厳のあって話づらそうな老人を想像していました。しかし実際にお会いすると、(まず教授の方から迎えにきていただいたのですが)見た目は非常に若々しく、ユーモアセンスがあり、話も聞いていて全く飽きないひじょうにおもしろいかったです。私たちが質問するときも、私たちの将来のことを考えて、「皆さんが大学生になった時に」とか、「これは皆さんが社会人になった時に必要なことで」とか、私たち目線でもわかりやすく答えてくださいました。私の夢である法曹のお話もたくさん聞くことができました。教授は以前裁判官としてお仕事をされており、そこでの努力や裁判官という仕事の難しさ、また裁判官のこういうところに誇りを持ってやっていた、と言った部分を聞く

ことができ、将来裁判官ではありませんが同じ法曹である検察官を志している身として非常に価値のあるお話を聞くことができました。また、私が検察官志望であるということを知ると、ご自分の大量にある本の中から、検察官のことを知りたいならこの本がおすすめだよ、という風にいくつもの本を紹介してくださいました。1つ1つがとても面白そうな本で、今度自分で買って読みたいと思っています。またそのほかには、一橋大学という所の魅力について教えていただきました。前述の通り一橋大学志望のわたしですが、恥ずかしながらあまり一橋大学がどういう所であるかあまり調べたり人に聞いたりすることをしませんでした。そのため一橋大学に入りたい、という気持ちも非常に漠然としたものでした。しかし今回のお話を通して、大学の像がより鮮明になり、この大学に入りたい、という気持ちがより一層強くなりました。また、これはお話ししてもらったこととは直接の関係はないのですが、教授には一橋大学のクリアファイルまで頂いてしまいました。無理を言っているのはこちら側であるのに非常に良くしてもらって、とても思い出に残る訪問となりました。

その夜には、仙台二高出身で東京大学をはじめとする首都圏の難関大学に合格した先輩方の話を聞く機会を設けていただきました。やはり現在学生として大学生活を楽しんでいる先輩方はどなたも本当に楽しそうで、なおかつ自分の将来についての展望はしっかり持っていました。自分と近い世代の目標とすべき先輩方との交流は非常に刺激的で、自分もこうなりたいと強く思うことができました。

そして次の日、これもかなり楽しみにしていた東京大学の見学会がありました。私はあまり人の話を聞かないタチなので、てっきり自分たちだけで東大を回るものだと思っていたのですが、実際には東京大学のボランティアサークル的なグループの方々に案内していただきました。この一人一人があのような有名な東大生なのかと思うと、ミーハーと呼ばれても仕方ありませんが気持ちが昂りました。

初めて見る東大の内部は、思ったよりもずっと小洒落ていて落ち着いた雰囲気のある良いところでした。テレビやその他メディアに取り上げられることの多い東大、私の中でも知らず知らずのうちに東大に対する固定観点、悪く言えばへんけんがあったのかもしれない。時間軸として外れてしましますが、最後に見た安田講堂は非常に貫禄があり、これぞ東大、というような風に感じました。

午後には、実際に東大の模擬授業を受けさせていただきました。今まで散々書いてきたのでお分かりでしょうが私は法学部志望であるため、ぶんけいのじゅぎょうを受けました。法学部の授業で非常に嬉しかったです。内容もさることながら、私が一番驚いたのは准教授の若さ、そして二人の相性の良さです。二人で授業を行うという方式も面白みがあって良いのだな、という風に考えられました。

このように今回の東京研修は、一泊二日と期間的には非常に短いものでしたが、私の今後の高校生活の基盤を作る指針、私が目標とすべきもの、私の将来設計など、非常に多くものを見つたり身につけたりすることができた研修だったと思います。普段東京に行

く期間があまりない地方都市では、ついつい地元ばかりに目が行きがちです。私も、周りの人には東北大学東北大学と言われ続けてきました。しかし、それだけが道ではない、むしろそれ以外の道の方がずっと開けている、ということを再確認できた点でも良かったと思います。

また、今回の東京研修で一番学べたことは、意識の高さの重要性です。いくら頭が良い人でも、目標がなければモチベーションが上がらず、自分の力を出しきれないままくすぶってしまいます。逆を言えば、元の頭の良さに関係なく、高い志がありそれを叶えるために頑張れる人は自分の力を十二分に発揮し自分の夢を叶えられるということになります。今回の研修で私がお会いした数々の素晴らしい方々は、皆必ず大きな志を持っていて、大きな夢を持っていて、何より自分という存在に一本の大きな芯がはいっているような感じでした。私自身、志望大学も将来の夢も決まっているつもりでいましたが、意識が圧倒的に低いということを思い知らされました。これからは自分の将来像、将来像とまで明確ではなくとも三年後の自分がどこで何をしているか、そう言ったことを明確に意識して、高いモチベーションを保ち続けてこれからの2年半の高校生活を過ごして行きます。